

新川会通信

第45号

# すまいる

発行  
社会福祉法人新川会

〒930-0362  
上市町稗田字七郎谷1-32  
Tel(076)472-1118  
Fax(076)472-5391  
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp  
HP http://www.niikawakai.jp/

発行責任者 久保 進



渡邊先生と介護予防運動の一コマ。レクリエーションで風船バレーをしています。

私の趣味は海外での生活体験することです。初めて訪問した国は、東南アジアのタイです。第二の都市チエンマイからバスで五時間程かかる山岳民族の村でホームステイをしました。村の人々と料理を作ったり、子どもたちからタイの遊びを教えてもらったり、タイダンスをしたり、タイの衣装を着せてもらったり、様々な異文化を体験しました。その後も、一人旅が好きでいくつかの国に行きましたが、現地の人々と交流して生活体験をさせてもらっています。現地の人が大切にしている作業を一緒に行なうことで、現地の生活環境や人々の価値観を知ることができます。

作業療法士として、その方にとって大切な作業を介して関わる中で、喜んでもらったり、達成感を感じてもらったり、またやりたいと言つてもらえると、私も非常に嬉しくなります。人が営む作業には、必要な作業、やりたい作業、期待されている作業があります。作業を通して心身機能を維持したり、作業 자체を楽しんだり、周りの人と共感したり関係性を深めたり、作業は様々な意味を持つています。

四ツ葉園の利用者の方々は、職員の創意工夫もあり生活中で様々な作業をされています。作業を通して、職員や他の利用者さんと一緒に活動ができる樂しかったなあ、有意義だったなあと感じながら一日一日を過ごせることを利用者の方々も望んでいらっしゃるのではないかと思います。

施設では高齢化も進んでいますが、自分にとつて大切な作業というものは、一生やり続けたいものです。四ツ葉園の職員と一緒に、利用者の方々にとつての意味のある作業を見つけ出して、生き生きとした生活を送れるように支援していきたいと思います。

作業を通して  
生き生きとした  
生活を目指して

作業療法士 渡邊純子



ニンニク作りの作業の工程は十  
月に畑を耕し、肥料を加え栄養豊  
富な土壤を作った後、  
畝を立てます。ここは  
力仕事なので、たくま  
しい男性利用者さん達  
がクワを振るつています。

十一月には、ニンニクの植え付けを行います。

雷鳥苑では、現在三十三名の方  
が活動をしています。雷鳥苑では  
リサイクル作業などの受託作業に  
加え、雷鳥苑の畑でニンニクやラ  
ベンダーを栽培し、自主製品作り  
に取り組んでいます。今回は、ニ  
ンニクの紹介を行います。

### ニンニク栽培

ニンニク作りの作業の工程は十  
月に畑を耕し、肥料を加え栄養豊  
富な土壤を作った後、  
畝を立てます。ここは  
力仕事なので、たくま  
しい男性利

一ヶ月程で発芽します。発芽後か  
らの作業が大切で一株から二本以  
上の芽が出ていたら、勢いの弱い  
方の「わき芽」をかいて一本にす  
る「芽かき」の作業と、病気にか  
からないよう希釈した木酢液を葉  
に散布する作業、越冬前と春先ま  
でに三回の追肥作業を行います。  
そうすることで春には立派な株に  
成長し、花芽が伸びてきます。し  
かし、この伸びてきた花芽は、根  
にあるニンニクに栄養を注ぐため  
に切り取る作業が必要です。

ニンニク作りの作業の工程は十  
月に畑を耕し、肥料を加え栄養豊  
富な土壤を作った後、  
畝を立てます。ここは  
力仕事なので、たくま  
しい男性利

他のどの作業工程よりも、一番生  
き生きと嬉しい生き生きとした表  
情をされますが。しかし、その後、収  
穫した大量のニンニクを暑い中、ニ  
ンニクと根を切るという大変な作業が  
皆さんを待ち受けています。



その後、乾燥工程に移ります。  
その間もニンニクが腐らないよう  
扇風機の風を当てて、様子をみな  
がら籠内のニンニクをかき混ぜて  
均一に乾燥ができるようにしてい  
ます。

### 加工食品作り

乾燥後、そのまま商品として販  
売しますが、十日間低温保温し  
て黒ニンニクを作つて販売もして  
います。みんな大切に育ててきた  
ニンニクの収穫作業は



このよう  
な手間暇を  
かけた作業  
を経て六月  
によくやく  
収穫ができ  
ます。みんな  
大切に育て  
てきたニンニ  
クの収穫作業  
を行います。



他のどの作業工程よりも、一番生  
き生きと嬉しい生き生きとした表  
情をされますが。その後、収  
穫した大量のニンニクを暑い中、ニ  
ンニクと根を切るという大変な作業が  
皆さんを待ち受けています。  
その後、乾燥工程に移ります。  
その間もニンニクが腐らないよう  
扇風機の風を当てて、様子をみな  
がら籠内のニンニクをかき混ぜて  
均一に乾燥ができるようにしてい  
ます。  
この工程を経て、乾燥材を入れ  
て個包装したものが「ニンニクチッ  
プ」となります。さらに細かくミ  
キサーで粉碎してパウダー状にし  
たものが「ニンニクパウダー」と  
なります。



雷鳥苑のニンニクの商品は有機  
栽培、無添加にこだわり、丹精  
込めて手作業で作った商品ばかり  
です。

ぜひ、お買い  
求めください。  
(長瀬支援員記)



## 雷鳥苑



合唱で、テーマにあつたように、



## 四ツ葉園だより

### 四ツ葉園祭

十月十二日に、第二十七回四ツ葉園祭が行われました。平成から令和へと年号が変わり、令和初の園祭となつた今年度は、「新時代」令和も笑顔の四ツ葉園

をテーマに準備を進めてきました。

園祭当日、日本各地に甚大な被害をもたらした台風十九号が県内に最接近し、急遽予定を繰り上げて終了することになりました。急な変更の中でしたが、園祭前まで一生懸命練習してきた「トーンチャイムクラブ」や「太鼓クラブ」の利用者の皆さんのは晴らしいステージ発表や、中止となつた午後のステージに代わり、職員が楽器演奏する中で利用者の皆さんが披露した「世界に一つだけの花」の

とは、今後の四ツ葉園祭の実施においても一つの大きな経験となつたのではないかと思いました。この経験を踏まえて、来年度以降もより良い園祭となるよう企画・実施していくらと思います。

(石原主任 記)

### 作業班 交通安全マスク配り

九月二十四日、秋の交通安全週間に、ドライバーの皆さんのが「無事帰る」という交通安全の願いを込めて、アイロンビーズで作ったカエルのマスクコットを配つてきました。

「交通安全お願いします!」と大きな声で呼びかけながら、ドライバーの皆さんにマスクコットを渡しました。「ありがとうございます」とすぐ車に飾つてくださる方もおられ、製作した八十個すべてを三十分で配り終えました。

(松井主任 記)

### 療育班 渡邊先生の訪問指導を受けて

今年度は介護予防に重点をつき、渡辺先生のアドバイスをもとに、週に二回レクリエーションの日を設定しました。円形になつてレクリエーションを行うことで、職員の声掛けや一人ひとりと関わることが増え、全体の笑顔も増えました。軽作業で集中が続かない方も楽しく参加しています。今後も利用者さんが楽しみながら、介護予防に繋げられる活動を考えたいと思います。

(廣明主任 記)

## 雷鳥苑だより

### 雷鳥苑祭

十月二十六日、第十四回雷鳥苑祭が開催されました。朝は雨雲広がる天気でしたが、苑祭が始まると天候が回復し、頃には天候が回復しました。

屋外では雷鳥苑保護者会の作るきのこ汁をはじめ焼き芋、から揚げの飲食ブースが並び、行列ができるようになりました。ステージ発表では、ドレミパイプで「さんぽ」を演奏した後、パブリカの曲に合わせて歌と踊りを披露しました。

今回の苑祭に向けて、利用者の皆さんは十ヶ月に入つてから毎日、朝礼後と昼休み時に出で、雷鳥苑の行事などでも披露していきました。ドレミパイプは叩く箇所、叩く音強さが重要で、音階にあつた音



(長瀬支援員 記)

食事やおやつも  
楽しみの一つです！



外出前には、公共の場でのルールやマナーについて、皆で考える機会を設けています。「他のお客様の迷惑にならないように、静かにす

る」「店内では走らない」「おう」など、店内での過

## 工房よつばだより

### 社会生活体験

十一月二十日、社会生活体験で一日外出を行いました。行き先は、増設しリニューアルオープンした「ファーポーレ富山」です。



(朝岡支援員 記)

ごし方について話し合いました。

ファーポーレに到着後、まずはフードコートにて昼食を摂りました。それぞれ食べたいものを店員さんに注文し、支払いも自分で行っています。

食後はお待ちかねの買い物です。たくさんある商品や店舗に目移りし、これだ！という一つをなかなか選べない人もいましたが、じっくりと考えて最終的には納得のいくものを購入することが出来たようです。

店舗が増え、広くなつた店内を色々と見たりおやつやゲームなどを楽しんだりと、リフレッシュできた一日になりました。

## さつき苑だより

### 徒歩会

さつき苑では年に二回、春と秋に「徒歩会」を行っています。

みんなで丸山公園まで歩きバーベキューをします。

丸山公園まではおよそ三回。普段歩かない利用者さんも今回ばかりは前を向いて一生懸命歩きます。



みんなで作った  
さつま芋  
おいしいな~

(酒井主任 記)

弱音が見られることもあります。が、皆で励まし合いゴールについた時には手を取り喜び合います。汗をたくさんかいた後に行う汗をたくさんかいた後に行うバーべキューは格別なようですが、皆さん「美味しい、美味しい」と喜んでいます。普段から家で料理の手伝いをしている利用者さんはこぞとばかりに腕前を披露してくれます。皆で取り組む「徒歩会」はさつき苑の人気行事の一つです。

### 焼き芋の会



さつき苑では毎年銀杏拾いの仕事を行っています。風で落ちる銀杏を拾い、保護者にお借りした水車で銀杏を処理します。さつき苑での秋の風景になっています。

### 銀杏拾い

さつき苑では毎年銀杏拾いの仕事を行っています。風で落ちる銀杏を拾い、保護者にお借りした水車で銀杏を処理します。さつき苑での秋の風景になっています。

## つつじ苑だより

### つつじ苑祭

十一月一日、  
第十一回つつじ苑祭が開催されました。

午後からは、シンガーギターや竹山かおりさんによるギターの弾き語りがあり、皆さん懐かしいフォークソングに聴き入ったつづじ苑の活動紹介

がありました。動画では午前は、利用者のステージ発表として、動画と実演によるつづじ苑の活動紹介

がありました。今年はたくさんの地域の方や学生のボランティアの方々に来ていただきたおかげで、盛況のうちに苑祭を終えることができました。協力してくださったボランティアの方々、保護者の皆様ありがとうございました。

地下道清掃やタオル伸ばし、アイロンビーズ、ジャム作りなどの日頃の様子が映し出され、皆さんそれぞれの顔が映るなど歓声を上げておられました。実演ではトランポリーナを披露しました。緊張しながらも元気よく体を動かす姿に、会場から大きな拍手をいただきました。

(宮川支援員 記)

発表の後は、滑川市吹奏楽団の方々による迫力のある演奏が行われました。「ヤングマン」などの大好きな曲が演奏されると皆さんも演奏に合わせて踊り楽しまれました。

模擬店では、つつじ苑で作つたジャムの試食コーナーや焼き



令和2年2月8日

## グループホームだより

たすきを  
つないで

十月二十日

に第四十七回上市  
町駅伝競走大会に  
出場しました。

各グループホームよ  
り六名の方が選手と  
して出場し、職員と合

同で二チームがエント  
リー。両チームとも見事  
にタスキをつなぎ完走しまし  
た。

走り切った後の皆さんの笑顔  
がとても素敵でした。また次回  
も頑張ろう！

（藤木施設長  
記）



全員完走！  
笑顔でピース



区間賞受賞しました！

三月二十八日十時～十一時半  
つつみだにの家で絵手紙教室開催

講師：池田るみ子先生

地域の皆さん、気軽にいらして  
ください。お待ちしております！

お問い合わせは

新川会 グループホームまで  
(090-8693-5800)

今大会は猛暑や熊出没への配

慮もあり充分な練習もできな  
かったのですが、当日はつつみ  
だにの家、第2つつみだにの家  
からの応援隊も駆けつけ、見事  
なチームワークで乗り切りまし  
た。

からだの家、第2つつみだにの家  
からの応援隊も駆けつけ、見事  
なチームワークで乗り切りまし  
た。

リスクマネジメント研修

四ツ葉園支援員 宮本 麻里

令和元年九月五日、六日、十月  
十七日にリスクマネジメント研修  
を受講してきました。

危機管理とは、①危険の存在や事  
故の発生を事前に予測して適切な  
予防策を講じる②万が一、事故が  
起きた場合は素早く対応して被害  
を最小限に食い止めることがあり、  
私達は危機管理意識を高め、適切  
に対応する必要があります。福祉  
サービスは、人による人のための  
対人的なサービスなので「ヒューマンエラー」が発生します。注意  
も記憶も完璧ではないという前提  
の下対策を考える必要があり、命  
と直結する仕事という責任を持ち、  
正しい知識を持つて支援にあたる  
ことが大切だと感じました。

研修報告

私が印象に残ったのは「ハインリッヒの法則」です。それは一つ

の重大な事故の前には二十九の軽  
傷事故があり、さらにその前には

三百ものヒヤリハットがあるとい  
うことです。事故に至る可能性の  
あつた出来事の発見を見逃さず、  
原因を分析し対策案を考え、職員

間で同じ意識を持ち支援にあたる  
ことが大切です。また結果に着目  
するだけでなく、「なぜ」を繰り返  
すことが再発防止に繋がること、

また実行後に対策を見直す機会を  
設けることで、現状に安心しない  
ことがリスクの軽減に繋がるよう  
に感じました。

今後も利用者さん一人ひとりと  
向き合う中で、小さな気付きや発  
見を大切にして、毎日楽しく安全  
に過ごせる環境を提供していくた  
いです。

